

名古屋発の研修 各地で人気

性的少数者(LGBT)への関心が高まる中、企業での理解を深める名古屋発のプロジェクトが人気だ。「オンザグラウンドプロジェクト」と題し、東京や大阪などで企業向けの研修を引き受けている。

神戸市内で9月末、小売り大手「丸井グループ」(東京)で働く関西地方の社員約20人が集まった。プロジェクトの代表、市川武史さん(34)と講師2人が、スライドを使って講義をした。市川さん自身は同性愛者で、今回の講師2人もLGBTの当事者だ。

「LGBTへの無知は、今やリスクとなる時代です」。市川さんは性的少数者へ差別的な商品を出したために批判を受けた企業などの例を挙げ、企業にとって異性愛者だけを前提とすることが顧客や信頼を失うことになる」と説いた。

ネットアンケートで約3000人の

性的少数者 企業は理解して



研修の受講者たちを前に話す市川武史さん(神戸市中央区)

※オンザグラウンドプロジェクト調べ。市川さん作成の資料から抜粋

■LGBT当事者へのアンケート結果

- 職場で言われて嫌なこと
 - 1位 何で結婚しないの?
 - 2位 (仲のよい同性同士に向かって)「お前らそっちか?」「ホモ/レズか?」
 - 3位 あの年で独身って「こっち」じゃない?
- 商業施設で困ること
 - 1位 クレジットカードを使った買い物
 - 2位 お手洗い
 - 3位 会員証やアンケートなどの性別記入欄

実例あげ紹介 デンソーなど100社受講

LGBT当事者に聞いた店で困ったことの実例も紹介。商業施設では、名義と見た目の性が違うと不審がられるため、クレジットカードでの買い物に困るといふ声が多かったという。

講義後のディスカッションでは、参加者から「店の商品に男性物、女性物、男女兼用といった区別をつける必要はないのでは」「今まで接し方が分からなかったが、普通に接することが大事と分かった」といった意見があがった。

プロジェクトは2013年に設立。名前には、LGBT当事者がアンダーグラウンド(地下)で生きざるを得なかった状況を過去のものとし、オン・ザ・グラウンド(地上)で生きていける社会へ、との期待を込めた。

これまで、自動車部品大手の「デンソー」(刈谷市)やフィットネスクラブを運営する「RIZAP」(ライザップ) (東京)など約100社を対象に研修を開いたという。市川さんは「規模を問わず、業界のリーダーングカンパニーといわれる企業からの依頼が多い」と感じている。

最近では企業にとどまらず、就職活動中の学生から「LGBTに優しい企業はどこか」と問い合わせが来るという。

市川さんは「当事者でなくても、社会に関心の高い優秀な学生ほどそういった企業を選ぼうとする傾向があると感じる」と話す。(日高奈緒)

看板狙うはインパクト

素人モデルが「効果」

名古屋の私道 通り抜け禁止周知

タレントの江頭2..50さんのようなイラストに、男性の顔写真を合成した看板が注意を呼びかける。「私道につき関係者以外の方は通行をご遠慮願います」。趣旨は分かる。だが、モデルは誰だ?

看板があるのは、名古屋市中区の地下鉄伏見駅近くで、御園通と伏見通をつなぐ細い路地の入り口。マンションや飲食店が点在する地域で、高さ約1.3m、赤と黄色のカラフルな文字はひと目引き目をひく。

調べてみると、設置したのは、私道を共同所有する合同印刷に勤める安藤実さん(46)だと分かった。

同社は私道に面した工場でフォークリフトを使用。通行人との事故を防ぐため、5年ほど前に文字だけの看板を設置した。しかし、あまり目立たなかったのか、通行量減にはつながらなかった。考えた末の結論が「インパクトが大事だ」。社内のデザイナーに手伝ってもらい、約1年半前に顔写真つきイラスト

看板が盗まれる被害にもあったという。

「効果があるのなら」と「ずかしいです」。(神野勇人)

らぬ男交番に 逮捕



容疑者逮捕に貢献した小野耀雅さん(左) 名古屋港港区の港署

「怖かったが、このまま逃げるのは悔しかった」。小学生の時の夢は警察官だったが、今は「悩んでいる」という小野さんに、署幹部は「ぜひ警察官に」と勧誘しきり。

のは悔しかった